武生ルネサンス通信

2017.12.15

280 号

12 月例会のお知らせ

日　時　　：　12 月 23 日（土）　18:30～21:30
場　所　　：　府中町屋倶楽部
内　容　　：　笑年会

先月は皆様のご協力によりまして、時間内に『絵暦』の作業を終えることができました。厚く御礼申し上げます。今年一年色々なことをして遊びましたが、今月はその仕上げとして大いに笑いたいと思います。

会　費　　：　2,000 円（弁当代）

■いつも見慣れている日野山が、すっかり雪で覆われました。平地でも雪起こしの雷が鳴るやら、北風が吹きすさぶやら、朝起きてみると庭木がすっぽり雪をかぶっているやらで、いよいよ冬将軍の到来を感じます。12 月 7 日は二十四節気の「大雪」でした。11 月 7 日の「立冬」から約 30 日後に当たります。この時期は日本海側では大雪になることもあり、ブリやハタハタの漁が盛んになったり、ナンテンの実が赤く色づいたりします。「大雪」の次は 12 月 22 日（旧暦十一月五日）に、「冬至」がやってきます。昔は、「冬至」の日が丁度旧暦の十一月一日に当たりますと、「朔旦（さくたん）冬至」と言って、瑞祥とされ、宮中では祝宴が行われました。また民間では、小豆粥や小豆南瓜を食べたり、ゆず湯に入る風習がありました。現代では「朔旦冬至」でなくても冬至の日の小豆南瓜やゆず湯の行事は残っているようです。

■福井新聞社主催の第 20 回福井写真グランプリで、『絵暦』の写真をいつも担当していただいている河合俊成さんが、最優秀賞を獲得されました。朝 7 時ごろに、あわら市中番地区のねぐらから餌場に向かう雁の群れを、高い位置から捉えたまるで絵のようなすばらしい写真です。審査委員長の土田ヒロミさんも「正確な自然観察と美意識が融合した見事な作品」と、絶賛しておられました。この作品が出来上がるまでに、河合さんはきっと何度も何度も現場に通われたことでしょう。

■雁の群れは季節を告げる風物詩です。北原白秋作詞、中山晋平作曲の歌に「雁、雁、棹になれ、先になれ」という行があります。小林一茶は雁が好きだったのか、雁を読み込んだ句が 500 句近くあります。中でも「けふからは日本の雁ぞ楽に寝よ」（長い旅が終わり、今日からは日本の雁になった。安心して休むがいい）の一句は印象的です。またその肉も奈良、平安以来高級食材として食べられていたことは、禅寺で作られた「がんもどき」からも窺がえます。

■『絵暦ー越前の里の草花篇』の感想が寄せられていますのでその一部を紹介します。

「また来年一年楽しませていただきます。（京都・朧谷寿様）」「ご丹精の絵暦。素敵なチームワークでお仕事なさってますね。（東京・後藤祥子様）」「絵暦　今年のは特に迫力があり月めくりが期待されました。来年は草花でまた心が和むことでしょう。（芦屋・信多純一様）」「この暦は越前の宝になるのではないかと思っています。（越前・神門桐郎様）」「真に迫る写真に接し越前を想い出しました。（富山・筆谷正夫様）」